

〈ミニシンポジウム〉

水産実験所から始まる新しい水産研究と教育

- 日時・場所 平成 21 年 3 月 27 日 13:00~16:00
- 企画責任者 山下 洋 (京大フィールド研セ)・宮台俊明 (福井県大生物資源)・古谷 研 (東大院農)・石松 惇 (長大海セ)
- 13:00~13:05 開会の挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・山下 洋 (京大フィールド研セ)
座長 宮台俊明 (福井県大生物資源)
- 13:05~13:30 1. 水産実験所が直面する問題と将来展望・・石松 惇 (長大海研セ)・多田邦尚 (香川大農)
- 13:30~13:55 2. 専門に特化することで水産実験所の発展をめざす・・・・・・
・・・・・・・・鈴木 譲 (東大院農)
- 13:55~14:20 3. 水産増養殖の実学をめざす水産研究所・・・村田 修 (近大水研)
座長 古谷 研 (東大院農)
- 14:30~14:55 4. 全学フィールド科学センターの目指すもの・上田 宏 (北大フィールド科セ)
- 14:55~15:20 5. 大学から見た水産実験所・・・・・・・・・・木島明博 (東北大院農)
- 15:20~15:55 総合討論 座長 山下 洋 (京大フィールド研セ)
宮台俊明 (福井県大生物資源)
古谷 研 (東大院農)
石松 惇 (長崎大環東シナ海研セ)
- 15:55~16:00 閉会の挨拶 宮台俊明 (福井県大生物資源)

企画の趣旨

我が国には 21 大学 36 施設の水産実験所が設置され、水産学における研究・教育の現場を提供している。近年、多くの水産実験所において組織の多様化が進み、現場に立地する利点を生かした特色ある実験所づくりが模索されているが、人員と施設の維持管理に関する問題も深刻化している。本シンポジウムでは、水産実験所が水産研究・教育において果たす役割と問題点を整理し、水産実験所だからこそ展開できる新しい方向性を検討する。

希望開催年：平成 21 年 3 月 27 日

提案者：山下 洋 (京大フィールド研セ：email：yoh@kais.kyoto-u.ac.jp)

提案年月：平成 20 年 8 月 22 日

水産学シリーズの出版を希望しない